

第5学年 国語科学習指導案

- 1 単元名** 新聞をもっと身近に！
「新聞を読もう」（「国語五 銀河」光村図書）

2 単元の目標

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 （思考力、判断力、表現力等 C（1）ウ）
- 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 （知識及び技能（1）カ）
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 （思考力、判断力、表現力等 C（1）ア）
- 新聞に親しみをもって読み、進んで必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 （学びに向かう力、人間性等）

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文章の構成や展開の特徴について理解している。	「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。
		進んで必要な情報を見つけたら、論の進め方について考えたりし、新聞記事を読もうとしている。

4 単元について

（1）本単元における言語活動について

本単元は、5、6年生の「読むこと」の指導事項ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」、指導事項ア「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」を受けて設定している。

そこで本単元では、「複数の新聞を活用して新聞の作りや工夫を知り、その読み方を身に付ける」という言語活動を設定する。新聞は、読者に伝わりやすいように、見出しやリード文、写真・図表などが工夫され、記事も「逆三角形」といわれる構成になっている。見出しは読者の興味を引きつけるような色、文字の大きさや位置などの工夫がなされている。内容は端的に、限られた分量の中で情報がまとめられ、文字だけで伝えきれないことは写真、絵、図、表などを使って紙面を構成している。ゆえに、「見出しでざっと読む」、「関心のある部分だけを読む」、「関連記事を読む」、「論説や投書などを比べて読む」など、多様な読み方ができる。また、見出しやリード文を活用することで出来事の概要や論説の要旨などをすばやく把握することができる。記事は5W1Hで書かれ、物事を客観的に伝えるための文章の書き方を学ぶことができる。そうした新聞の特性を生かして、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、わかったことや考えたことを伝え合う力を伸ばしていく上で新聞という

材は適しているといえる。

本時では、前時に学習した新聞記事の「逆三角形の構成」を活用しながら、同じ日・同じ出来事が掲載されている全国紙と地方紙の二つの新聞記事を比べながら読んでいく。同じ日・同じ出来事の記事でも、見出しや記事の内容が違うのはなぜかと問うことで、書き手は読み手に合わせた情報を発信しようとしていることに気付かせたい。その際、記事中の関連する語句と語句に印を付けたり、線で結んだりするなど図示することによって、見出しとリード文、本文や資料等とのつながりを捉えることができるようにする。読み手が変わることによって記事の内容が変わってくることや、その違いは見出しを見ればわかることなど、新聞記事の見出しや資料などに着目して読むと目的に応じて必要な情報を見付けられることが実感できるようにしていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本教材は、まず見出しやリード文、写真・図表などが工夫され、紙面全体の構成、編集の仕方、新聞用語や構成を知るのに適した記事が取り上げられている。次に同じ出来事について書かれた記事を読み比べることで、両者の違いやその意図の違いなどを考えさせることができる。新聞記事には書き手の意図が含まれており、同じ内容を取り上げた記事であっても、見出しの書き方や扱う資料等によって読み手に与える印象が異なってくる。そのため、自分の目的に応じて必要な情報を意識し、摘読することが必要となる。本単元の学習を通して、今後の生活の中でも、自分の目的に応じた効果的な読み方を身に付けることができると考える。そのためには、日常的な取組として、スクラップブックを作ったり、各新聞社がインターネットで配信しているワークシートを活用したりする。様々なジャンルの記事にふれたり、見出しを空欄にしたものを配付し、児童自身が記事の内容に合った見出しを考えてつけたりできるようにする。さらに日々の新聞を教室に置き、自由にいつでも手に取って見られるようにすることで、新聞を読む経験を積みせると共に、新聞に対する関心を高めていく。

5 単元の指導計画（4時間扱い）

次	時	学習活動と内容	指導や支援の手立て（◇は評価）
第一 次	1	○学習の見通しをもち、単元計画を立てる。 ○新聞の一面記事を見て、気付いたことや感想を交流し合う。 ○新聞の構成や特徴を知る。	・新聞記事は「逆三角形の構成」になっていることを確認する。 ◇新聞の構成や特徴を理解し、必要な情報を見つけるための方法について考えることができる。
第二 次	2	○桐生選手について書かれた二つの記事を比べて読む。 ○どんな違いがあるかを考え、段落を中心に大まかな要旨をまとめる。	・「数字」「場所」「新聞の構成」「言葉」など、比べる観点を示す。 ◇二つの記事の論の進め方について考え、それぞれの大まかな要旨を捉えている。
	3 本時	○前時にまとめた要旨をグループで話し合う。 ○なぜ二つの新聞記事に違いがあるのかについて考える。	・段落ごとのキーワードを見つけて、本文を見直しながら、要約した自分の考えを話し合うようにさせる。 ・グループに一枚ずつ拡大した新聞記事を用意し、相違点がある理由について気付いたことを書き込みながら話し合いができる

			ようにする。 ・誰が読むのか（相手意識）、何のために読むのか（目的意識）などを問い、伝え方の違いに気付くことができるようにする。 ◇二つの記事を比較して違いに気付き、それぞれの要旨から、論の進め方などについて考えることができる。
第三次	4	○見出しに着目して新聞を読み、興味を持った記事を選ぶ。 ○選んだ記事を読んで、要旨をまとめ、意見や感想を書いて交流する。 ○単元の学習を振り返る。	・児童の興味関心に沿った新聞記事を用意しておく。 ◇新聞の特徴をいかして記事を選び、必要な情報を見つけて読むことができる。

※日常の取り組み…新聞コーナーを設けて自由に新聞を読めるようにする。

気になった記事についてスクラップブックを作る。

各新聞社がインターネットで配信しているワークシートを活用する。

※事後 …アンケートの再調査を行い、児童の変容を見取る。

各教科において、新聞を書き発信する活動を行う。

7 本時の指導（3／4）

（1）本時の目標

○二つの記事を比較して違いに気付き、それぞれの要旨から、論の進め方などについて考えることができる。
 （思考力、判断力、表現力等）

（2）展開

学習活動と内容	指導や支援の手立て（◇は評価）
1 前時までの学習を振り返り、本時の学習問題を 確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りと本時の学習計画を確認し、二つの新聞記事の違いを読み解くという学習への意欲付けを行う。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 同じ出来事について書かれていても、ちがいがあるのはなぜだろうか。 </div>	
2 前時にまとめた要旨についてグループで話し合い、なぜ二つの新聞記事に違いがあるのか考える。 ・「全国紙は全国各地で読まれることを、地方紙（京都新聞）は京都やその周辺で読まれることを意識しているからじゃないかな。」 ・「地方紙（京都新聞）はルーズの写真。ほかの選手よりも足が速く、「ジェット」の見出しにふさわしい写真を選んで載せているよ。」 ・「見出しを比べても、全国紙は「世界」への記録のこと、地方紙（京都新聞）は「京滋」や	<ul style="list-style-type: none"> 段落ごとのキーワードを見つけて、本文を見直しながら、要約した自分の考えを話し合うようにさせる。 それぞれどういう人が、どういう関心で読んでいるのかに着目させる。 グループに一枚ずつ拡大した新聞記事を用意し、相違点がある理由について気付いたことを書き込みながら話し合いができるようにする。 記事中の関連する語句と語句に印をつけたり線で結んだりして、情報と情報と関係付けさせる。

<p>「桐生」のように選手のことを中心に、書き手が注目したからだろうな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方紙（京都新聞）では、桐生選手の京滋への思いを地元の人に伝えたかったのがわかるな。」 ・「読み手が一番知りたいと思っていることを伝えようとしているのではないかな。」 <p>3 考えたことを全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伝えたい相手が誰なのかによって、記事の内容が変わっているね。」 ・「書いている人によっても違うよ。」 ・「見出しを見ると一目で違いがわかるね。」 <p>4 新聞記者の方の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記事のどこからそう感じたのか、線を引いたり、理由を問い返したりすることで、根拠をもって考えたり話したりすることができるようにする。 ・誰が読むのか（相手意識）、何のために読むのか（目的意識）などを問うことで、伝え方の違いに気付くことができるようにする。 ・書き手の思いにも触れられるようにする。 <p>◇二つの記事を比較して読み、それぞれの要旨から、論の進め方などについて考えることができる。 （思考・判断・表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の関心、書き手の意図が中心となって情報が選ばれ、新聞記事が書かれていることをおさえさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・書き手の思いに注目して話を聞くよう声をかける。
<ul style="list-style-type: none"> ・同じ出来事でも、書き手が読み手に伝えたい内容がちがうと、記事の内容が変わる。 ・読み手が知りたいと思う情報が選ばれて記事が書かれている。 	
<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み比べると、いろいろな違いがあることに気付きました。」 ・「読み手が知りたいと思う情報の違いが、記事に表れていると初めて知りました。」 ・「全国紙と地方紙で書かれている内容がこんなに違うのかと、驚きました。」 ・「全国紙にはない、地方紙を読まないとわからない情報がたくさんあることに気付きました。」 ・「全国紙、地方紙それぞれに書き手の思いが伝わってくることを感じました。」 ・「他の新聞では、どのように書かれているのか気になったので読んでみたいです。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いで出されたキーワードをもとに振り返るよう声かけをする。